

「わんわん」はなぜ英語で「bow bow」?

英語班:韓 賢友、山田 彩乃

Abstract

The purpose of this research is to clarify the reason why Japanese and foreign language onomatopoeia are different. Onomatopoeia can be broadly classified into onomatopoeia and mimetic words, and it was found that they have different origins. The research revealed that the way sounds are overheard differs depending on the native language, and the mimetic words are derived from words that originally existed in each language. Therefore, in this study, it was concluded that onomatopoeia was caused by the differences in the way sounds were perceived by speakers' native languages, and that mimetic words were derived from words that existed in each language.

要約

本研究の目的は、日本語と外国語のオノマトペが異なる理由を明らかにすることである。オノマトペは大きく擬音語と擬態語に分類され、それぞれ異なる起源を持っていることが分かった。調査によって、母国語によって音の聞こえ方が異なること、擬態語の由来はそれぞれの言語に元来存在する単語であることが分かった。従って本研究では、擬音語は話者の母国語による音の聞こえ方の違い、擬態語はそれぞれの言語に存在していた単語から派生したことが原因で、オノマトペの違いが発生したと結論づけた。

1. はじめに

日常生活で、日本語と英語でオノマトペが大きく違っていることに気づいた。これに興味を持ち調べると、英語以外にも言語によって様々な違いがあることを知った。そこで、言語によるオノマトペの違いが生まれた理由について疑問が生じたので、その解決のためには、オノマトペの起源(=オノマトペが生まれたメカニズム)を知ることが必要であると考えた。また、擬音語と擬態語では、起源がそれぞれ異なると考えて調査を進めた。更に、本研究を行うことで、オノマトペを媒体とした、言語の歴史の究明に関する貢献が期待できる。本研究では、日本語、英語、韓国語の範囲で、言語によってオノマトペが違う理由を明らかにする。

2. 研究手法

擬音語と擬態語で起源が異なると考えられるため、異なる研究手法で調査を進めた。擬音語(調査1)は、一定の音声を日本人と外国人に聞かせ、それぞれどのように言語化するかアンケート調査を行った。擬態語(調査2)は、代表的な擬態語が成立した由来を言語ごとに調査し、それぞれの傾向を比較して原因を考察した。

《調査1(擬音語)》

①高校生80名と外国人25名にオノマトペが一般的に存在していない音声(ペンギン、バッファロー、ハリネズミ、ハヤブサの鳴き声)を聞かせた。高校生にはスピーカーから直接聞かせ、外国人には「HelloTalk(ハロートーク)」というアプリケーションを用いて音声ファイルから聞かせた。

②聞かせた音声を、それぞれ独自のオノマトペに変換させた。変換はひらがな、カタカナ、アルファベットのどれでも可とした。

③回答のうち、それぞれ似たものをグループにまとめ、日本人と外国人の傾向の違いを観察し、起源を考察した。

《調査2(擬態語)》

①それぞれの言語の擬態語の由来を文献から調査した。

②言語ごとに擬態語の特徴を比較して、起源を考察した。

3. 結果

《調査1(擬音語)》

日本人と外国人の間で、表現の仕方に差異が多く見られた。同じ系統の回答をグループ化してその数を比較すると、日本人は3~5パターン、外国人は5パターン以上に分かれていた。以下に詳細なパターンの内容を記す。但し、鉤括弧の中の子音から始まる回答を一つのグループとして数えた。

ペンギンの鳴き声では、最も違いが顕著に見られ、結果の分かりやすい音声であった。日本人は「kr・gr」「dr」「br」のパターンが80人中70人以上(分類が曖昧なものもあった)で、外国人はこれに加え「zr」「tr」など日本人には全く見られなかったパターンもあった。

バッファローの鳴き声では、日本人はある程度のグループ化がなされていたが、外国人は比較的分散が激しかった。日本人は「kw」「gy・g」「by」のパターンが大半(80人中50人以上)で、外国人はこれに加え「zw・z」「dw」などもあったが、かなり分化しておりグループ化が難しく、ペンギンの鳴き声よりまとまったデータは得られなかった。

ハリネズミの鳴き声では、日本人も外国人グループが多くなっていて、

《調査2(擬態語)》

日本語では、元来存在していた名詞や動詞などの言葉から反復派生して現在の擬態語に定着しているという説が有力な場合が多かった。英語では、名詞、動詞、形容詞などの言葉が全く同じ形で擬態語として直接派生している場合が多かった。韓国語では、ほとんどの場合形容詞が変形反復派生して擬態語に定着していた。

以下は動詞や形容詞から派生したと考えられる擬態語の一例である。下線部が派生した部分(下線部は直接派生、斜体部は変形派生を表す)であると考えられる。①、②は起源となる単語が主に動詞、③は形容詞であり、これらに品詞を絞ってそれぞれ例として挙げている。

①日本語

動詞	派生した擬態語
転がす	<u>コロコロ</u>
揺らす	<u>ゆらゆら</u>
煌めく	<u>キラキラ</u>

②英語

動詞	派生した擬態語
<u>click</u> 意味:カチッと音がする	<u>click</u>
<u>knock</u> 強く打つ	<u>knock</u>
<u>phew</u> 息を吐く	<u>phew</u>

③韓国語

形容詞	派生した擬態語
読み方:シクロプタ <u>씨끄럽다</u> 意味:うるさい	シクルシクル <u>씨끄러씨끄러</u> がやがや
ヌリダ <u>느리다</u> 遅い	ヌリッヌリッ <u>느릿느릿</u> のろのろ

ミクロプタ <u>미끄럽다</u> 滑りやすい	ミクルミクル <u>미끌미끌</u> つるつる
-------------------------------	-------------------------------

4. 考察

擬音語は、話者の母国語によって音の聞こえ方が異なることから、同じ音でも異なる言葉の表し方がされるようになったと考えられる。ただし、音の聞こえ方は日本人より外国人のほうが分化しているが、実際に存在するオノマトペの概数とは矛盾が発生する結果であった。これは、例えば単純に日本語の音の数の少なさや外国でオノマトペが発展しなかった障害の存在可能性だけがすべての要因であるとは言い切れず、調査対象や条件の甘さも要因の一つであるとも考えられる。したがって、対象の年齢や音の聞かせ方などの調査方法を更に揃えて出された結果のほうが信憑性が高い。

擬態語は、言語によって異なる派生の仕方をしていることが分かった。派生の仕方が異なるのは、言語そのものの性質(例えば主語、動詞、目的語などの文法的要素など)や、それぞれの国の文化(例えば、日本では漫画という文化が比較的盛んなため、新しくオノマトペが開発されたという可能性が考えられる。)が関係していると考察できる。そこで、日本語と英語の動詞の数を比べるという調査を簡単に行った。複数の国語辞典サイトと英語の辞書の動詞の数を比較すると、日本語は約一万語、英語は約十万語幹(一語幹に少なくとも一つの動詞が含まれると仮定すると、動詞は最低十万語)という結果であった。これらのことから、考察の一例として、より動詞を詳しく説明するため修飾語のバリエーションが多様化したと推察することができる。ただし、あくまでも簡単な仮説の一つなので、これを含み他の仮説とあわせて更に詳しい研究ができれば、この原因まで突き止めることができると考えられる。

5. 結論

オノマトペは擬音語と擬態語で起源が異なり、擬音語は話者の母国語によって音の聞こえ方が異なること、擬態語はそれぞれの言語に元来存在していた言葉から派生していることが原因で、オノマトペは言語によって異なると考えられる。更に、調査対象を絞って起源を辿ると、より深化した調査も可能と考えられる。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

- 浜野祥子(2014)『日本語のオノマトペ 音象徴と構造』105～111ページ くろしお出版
 小野正弘(2019)『オノマトペ擬音語・擬態語の世界』122～127ページ 角川ソフィア文庫
 伊勢雅臣(2017)『なぜ日本人には虫の「声」が聞こえ、外国人には聞こえないのか』
<https://www.mag2.com/p/news/233784/2> (参照2022-06-22)
 goo辞書 <https://dictionary.goo.ne.jp/> (参照2022-10-12)
 weblio国語辞典 <https://www.weblio.jp/> (参照2022-10-12)